



**Human Metabolome Technologies, Inc.**

**2025年6月期  
決算説明資料**

**2025年8月**

**ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社 (6090)**

本資料の一部またはすべての複製・再配布は、お断りいたします。

# 目次

1. 2025年6月期（前年度） 決算報告
2. 中期経営計画の進捗
3. 2026年6月期（今年度） 業績予想
4. 資本コストを意識した経営施策

## 参考資料

# 目次

1. 2025年6月期（前年度） 決算報告
2. 中期経営計画の進捗
3. 2026年6月期（今年度） 業績予想
4. 資本コストを意識した経営施策

## 参考資料

# 12期連続の増収 5期連続の営業増益を達成

(単位：百万円)  
(表中の△は損失・百万円未満切捨て)

	2024年6月期	2025年6月期	増減額	増減率
売上高	1,345	1,455	109	8.1%
営業利益	220	249	29	13.3%
経常利益	241	240	△0	△0.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	243	256	13	5.4%
1株当たり当期純利益 (円)	41.14	43.67	2.53	6.1%

本資料の一部またはすべての複製・再配布は、お断りいたします。

(単位：百万円) (表中の△は損失・百万円未満切捨て)

セグメント売上高	2024.6月期	2025.6月期	増減額
先端研究開発支援事業	1,186	1,143	△ 43
ヘルスケア・ソリューション事業	158	311	153
合計	1,345	1,455	109

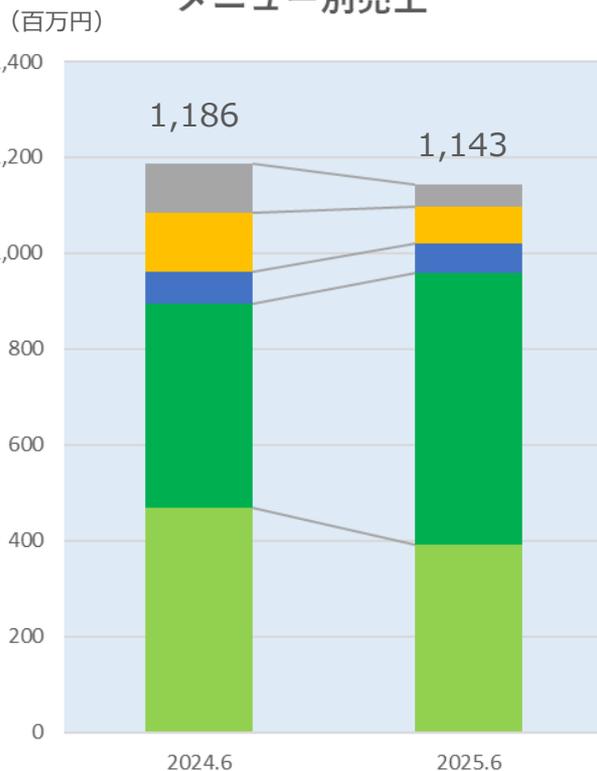
セグメント費用	2024.6月期	2025.6月期	増減額
先端研究開発支援事業	876	958	82
ヘルスケア・ソリューション事業	249	247	△ 2
合計	1,125	1,205	79

セグメント利益	2024.6月期	2025.6月期	増減額
先端研究開発支援事業	310	184	△ 126
ヘルスケア・ソリューション事業	△ 90	64	155
合計	220	249	29

国内はアカデミアと食品分野が大型受注などにより大幅増加。  
 欧米事業は不確実性の高まりによるライフサイエンス研究開発市場の低迷により大幅減少。

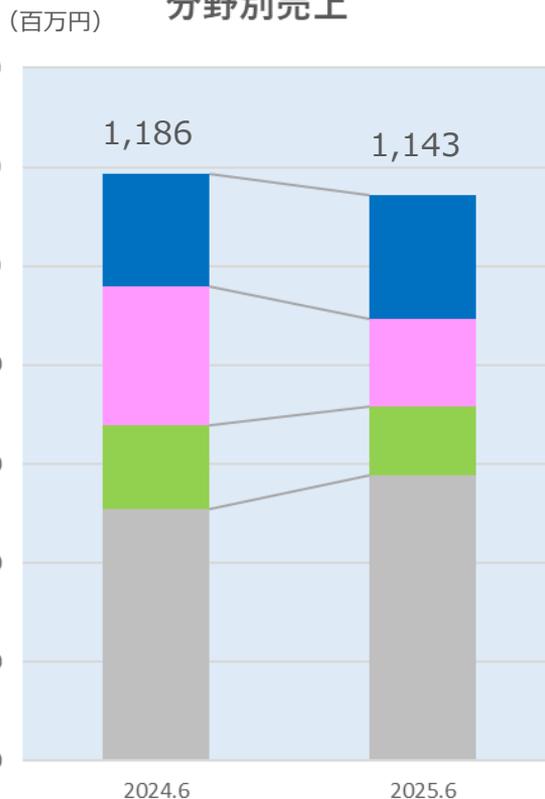
売上△3.7% 43百万円減

メニュー別売上



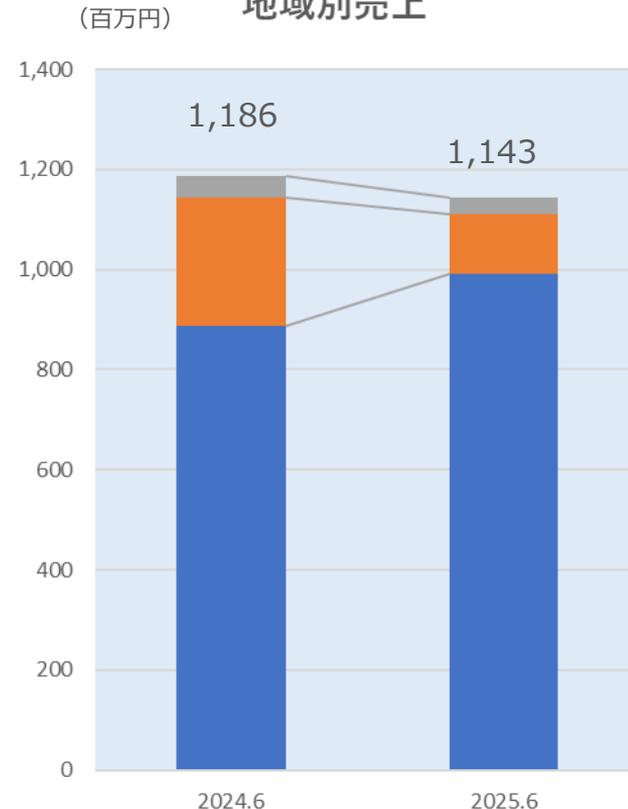
- 網羅解析
- 高感度網羅解析
- ターゲット解析
- 提携サービス
- その他

分野別売上

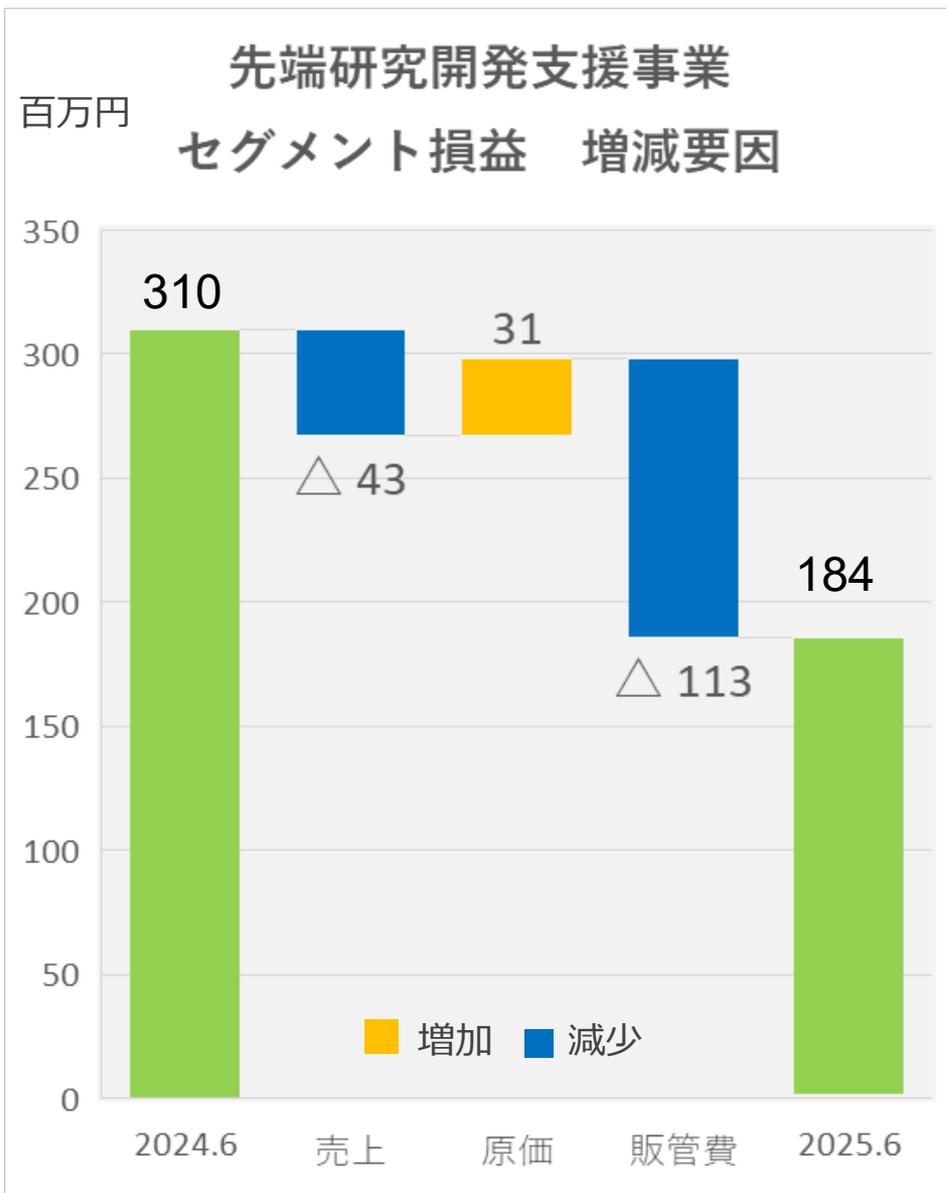


- 大学・公的研究機関
- 化学企業
- 製薬企業
- 食品企業

地域別売上



- 日本
- 欧米
- アジア



セグメント利益 126百万円減

## 売上増

- 国内アカデミア分野と食品分野で大型受注により大幅増加
- 海外は、不透明感の増大によるライフサイエンス関連研究開発が大きく抑制され、大幅減少

## 原価減

- 売上減少に伴う原価減少

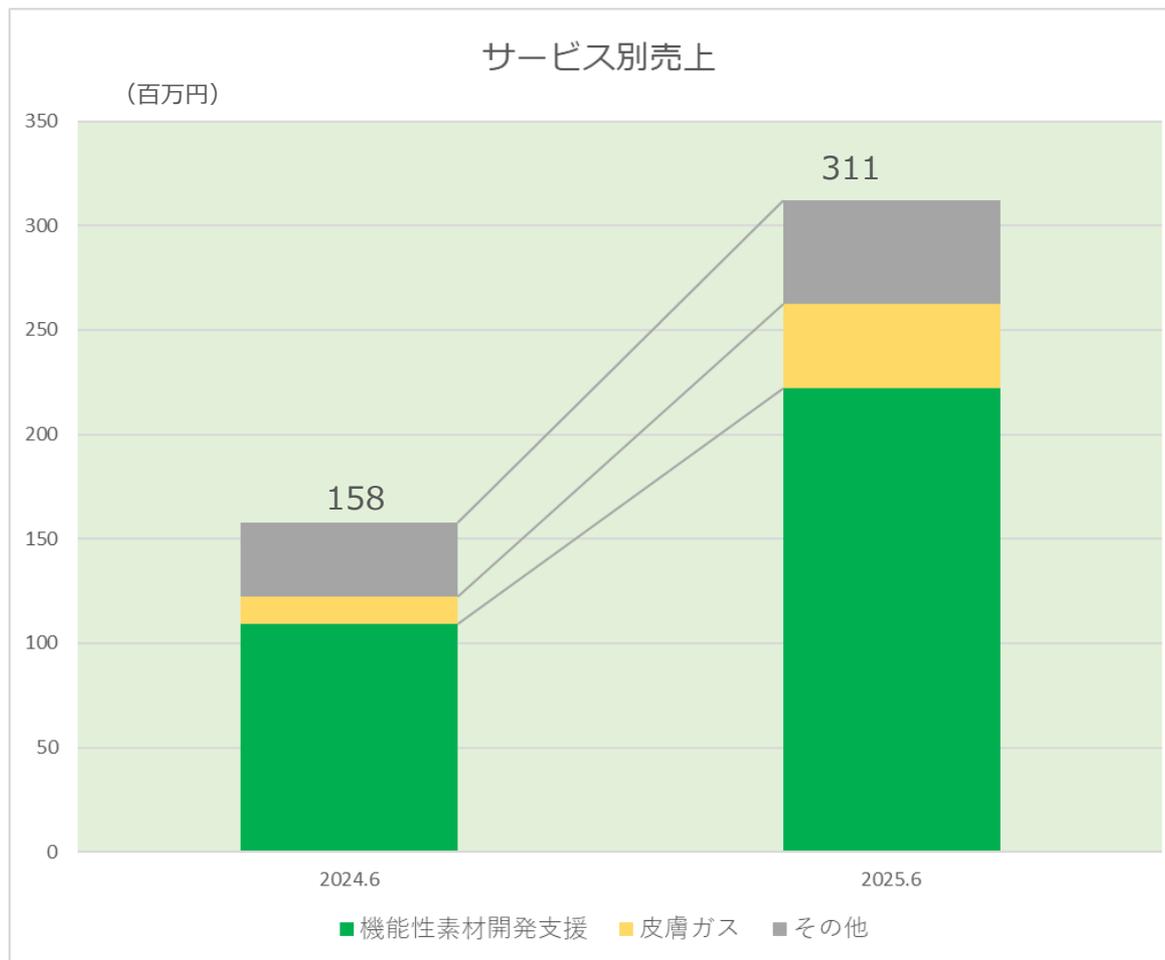
## その他販売管理費増

- バイオものづくり支援サービスの研究開発に集中投資
- 人件費増 + 貸倒引当

本資料の一部またはすべての複製・再配布は、お断りいたします。

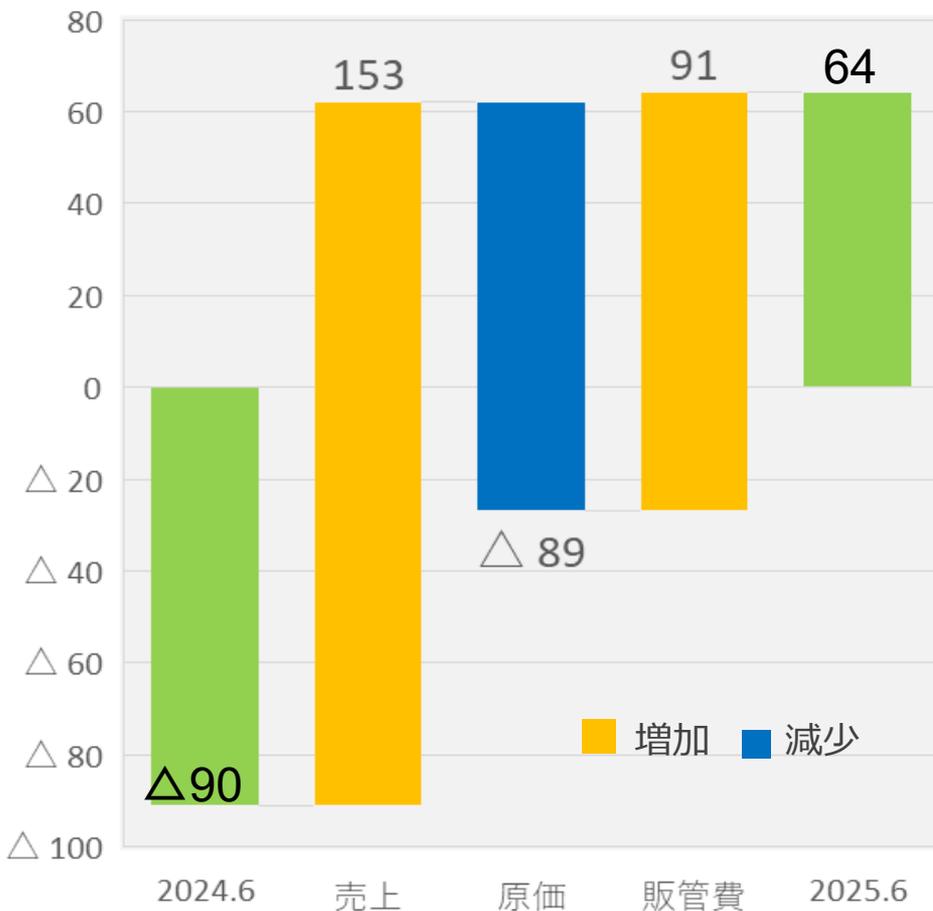
食品企業のみならず、製薬・化学企業などでも機能性素材開発支援サービスが増加。皮膚ガス測定も増加。

売上 +96% 153百万円増



## ヘルスケア・ソリューション事業

セグメント損益 増減要因



## セグメント利益 155百万円増

### 売上増

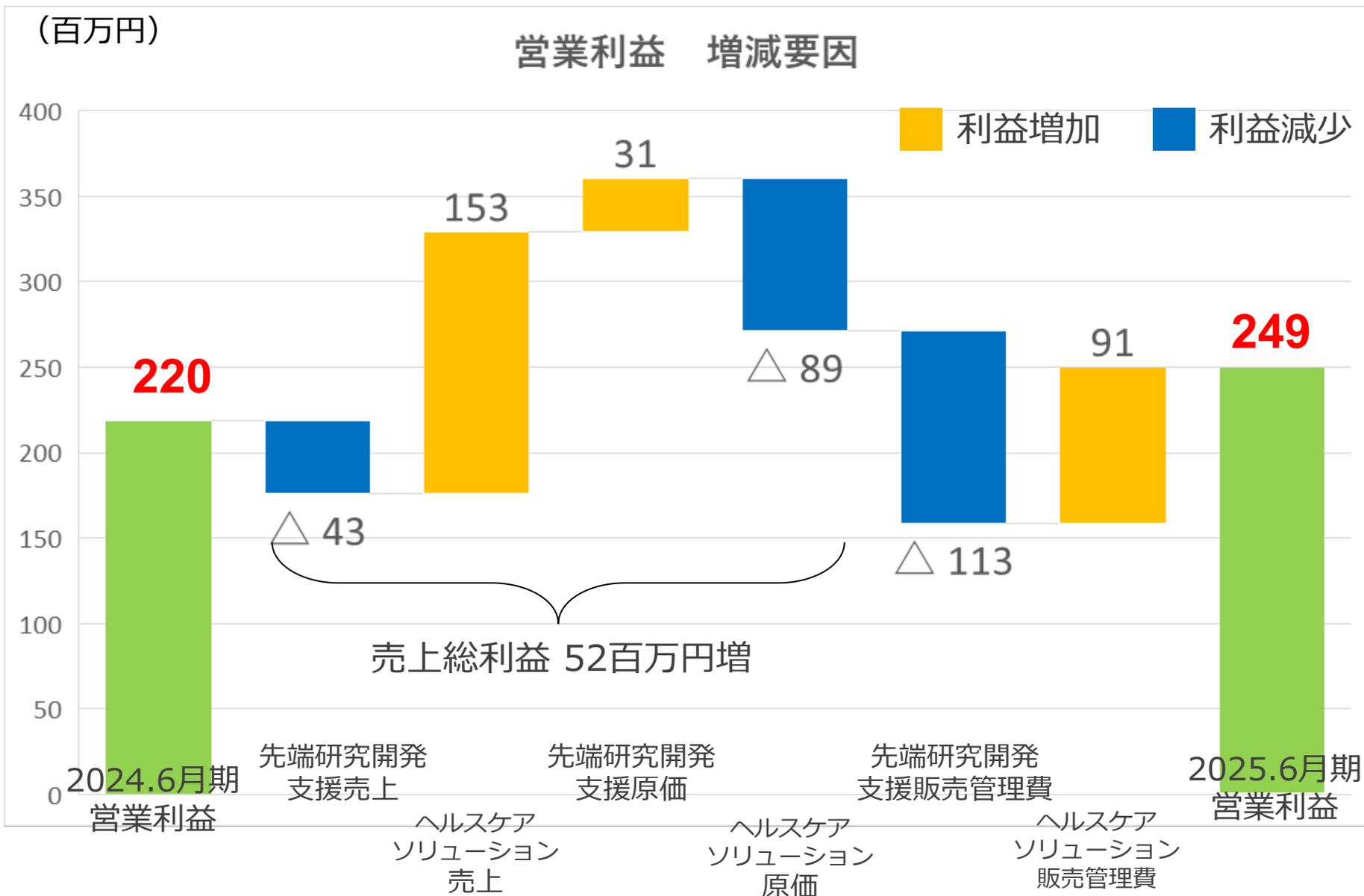
- 機能性素材開発包括支援サービスの売上増加
- 皮膚ガス測定も堅調に推移

### 原価増

- 売上増に伴う原価増

### 販売管理費減

- 研究開発投資を先端研究開発支援事業に大幅シフト



本資料の一部またはすべての複製・再配布は、お断りいたします。

# 目次

1. 2025年6月期（前年度） 決算報告
2. 中期経営計画の進捗
3. 2026年6月期（今年度） 業績予想
4. 資本コストを意識した経営施策

## 参考資料

## 2020.6-2023.6 経営基盤整備

- ・売上増加
- ・不採算部門の再編  
(欧州・バイオメディカル 子会社)
- ・先端研究開発支援事業 生産性向上
- ・ヘルスケア・ソリューション事業  
の立上げ
- ・研究開発の推進、効率的な運用

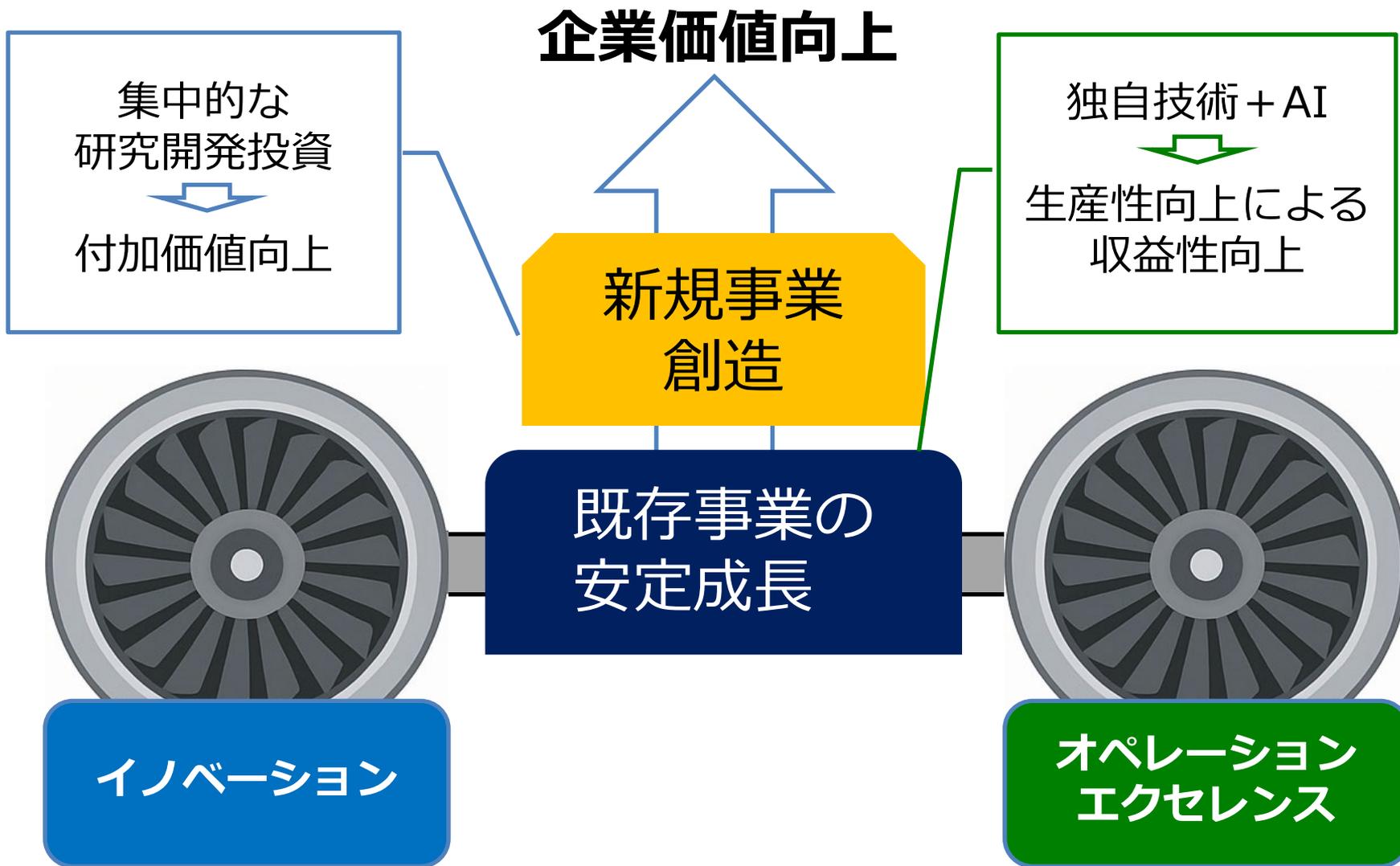
→ **安定利益確保・財務体  
質強化・株主還元開始**

## 2024.6-2026.6 成長基盤構築

- ・機能性素材開発支援等を中核として  
ヘルスケア・ソリューション事業を拡大
- ・研究開発分野を選定し投資を継続
- ・生産性向上のためのデジタル化推進
- ・顧客満足度向上に向けた新メニュー開発

→ **新規事業による利益拡大・  
飛躍的成長に向けた  
新規分野での研究開発の推進**

2026.6以降  
企業成長



2024年6月期～2026年6月期 成長基盤構築

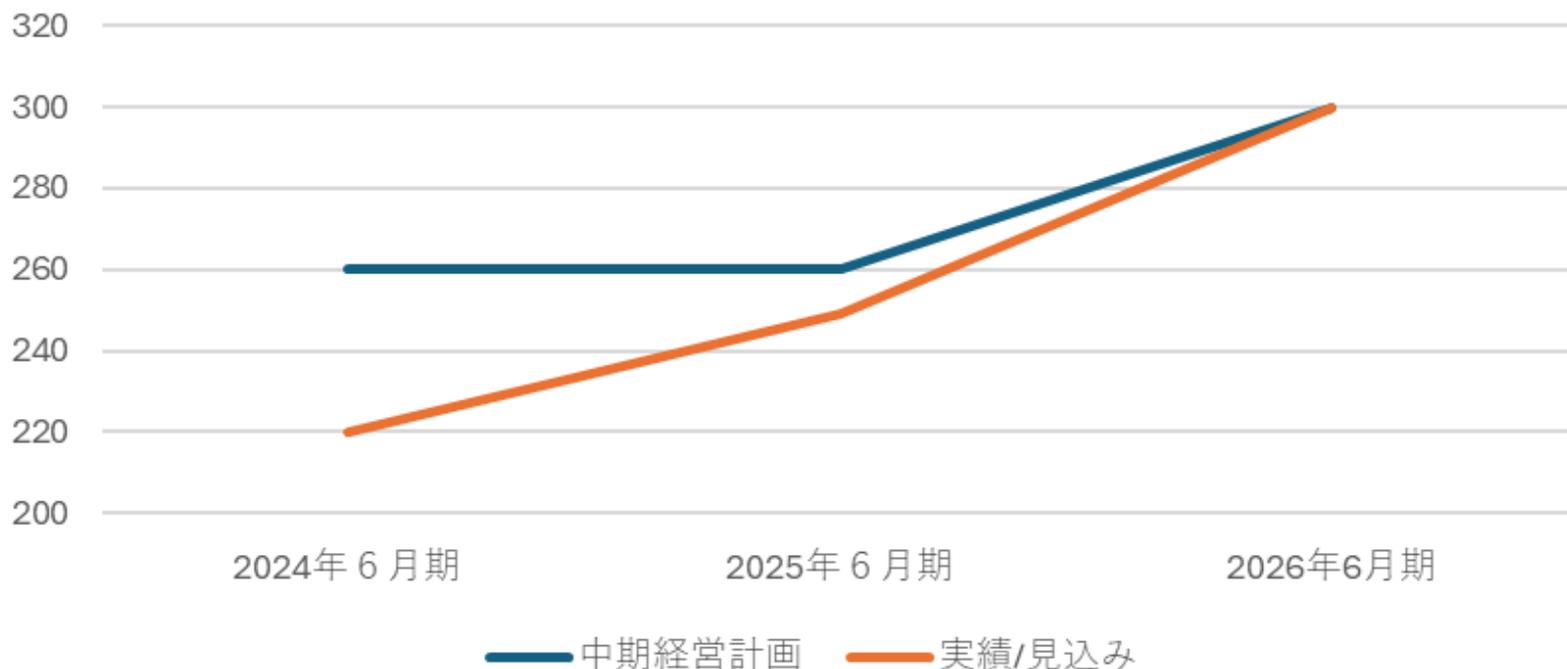
新規事業による利益拡大・飛躍的成長に向けた  
新規分野での研究開発の推進

(単位：百万円)

	2023年6月期	2024年6月期	2025年6月期	2026年6月期
売上高	1,299	1,345	1,500	1,600
営業利益	210	220	260	300
経常利益	232	241	280	300
親会社株主に帰属する 当期純利益	285	243	280	290

## 中期経営計画の軌道に回帰

### 営業利益進捗



◎ヘルスケア・ソリューション事業の売上大幅増  
提携サービス（外注）の拡大

○海外製薬企業の売上増加  
高感度網羅解析と特注対応が増加

×国内アカデミア・製薬企業での売上減少  
コロナ特需の剥げ落ち  
+ 製薬大型案件の終了

国内売上において限界利益率の高い自社解析売上が減少し、仕入が増加したことで売上原価増加  
⇒ **売上総利益が微増にとどまる**

## 自社解析売上の増加に注力

**A機能性素材開発  
包括支援サービスの  
拡販**  
・自社サービス拡張と  
拡販

**B革新的な  
新サービス導入**  
・中分子メタボロミクス

**C海外事業強化**  
・営業力強化  
・グローバル企業  
フォーカス

**D新規事業創造**  
・バイオモノづくり  
生産性向上支援サービス  
開発

施 策	結 果	主 要 因
A.機能性素材開発包括支援サービスの拡販	売上倍増 セグメント利益も黒字化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規顧客増加</li> <li>・ヘルスクレーム予測パッケージなどによる売上増加</li> </ul>
B.革新的な新サービス導入	新サービス受注 13百万円	ペプチドスキャンアドバンスト、糖分析オプション発売開始(2024年12月)
C.海外事業強化	対前年比△56%	欧米ライフサイエンス研究開発費の抑制（不透明感+政府支出削減+薬価引下対応）
D.新規事業創造	バイオものづくり支援サービス発売開始(2025年7月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中的な開発投資</li> <li>・資本業務提携先とのパイロットランによるサービスの磨きこみ</li> </ul>

## セグメント統合

ヘルスケア・  
ソリューション事業  
の黒字化  
(安定軌道へ)

バイオものづくり  
支援サービス開始

リソースのより機動的かつ有機的活用

## 企業価値向上

## セグメント統合

先端研究開発事業



ライフサイエンス研究  
支援サービス (LSS)

ヘルスケア・  
ソリューション事業



機能性素材開発支援  
サービス (FDS)

バイオものづくり支援  
サービス (BMS)

※九州大学様との「メンタルヘルス不調による休職・復職支援のための精神状態評価指標」の検証は終了。  
PEAに係る研究開発活動は当面休止。

## 主要施策

バイオものづくり支援サービスの早期立ち上げ

既存事業である  
ライフサイエンス研究支援サービスと  
機能性素材開発支援サービスの安定成長

新規事業創造の継続

# バイオものづくり支援サービスの早期立ち上げ

バイオものづくり  
支援事業 (BMS)



バイオ素材



培養肉



バイオ医薬品



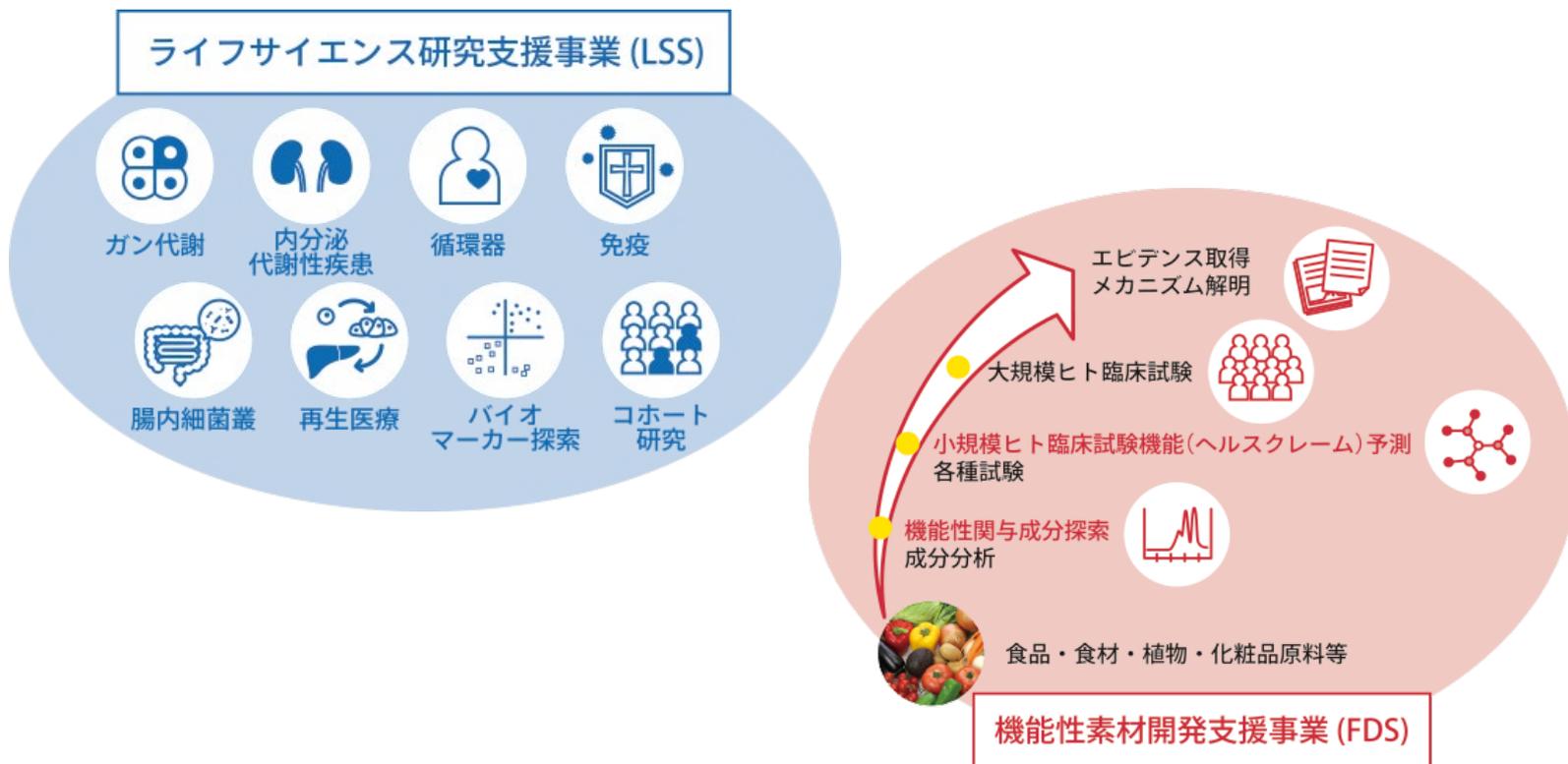
バイオ燃料

ハイスループット解析

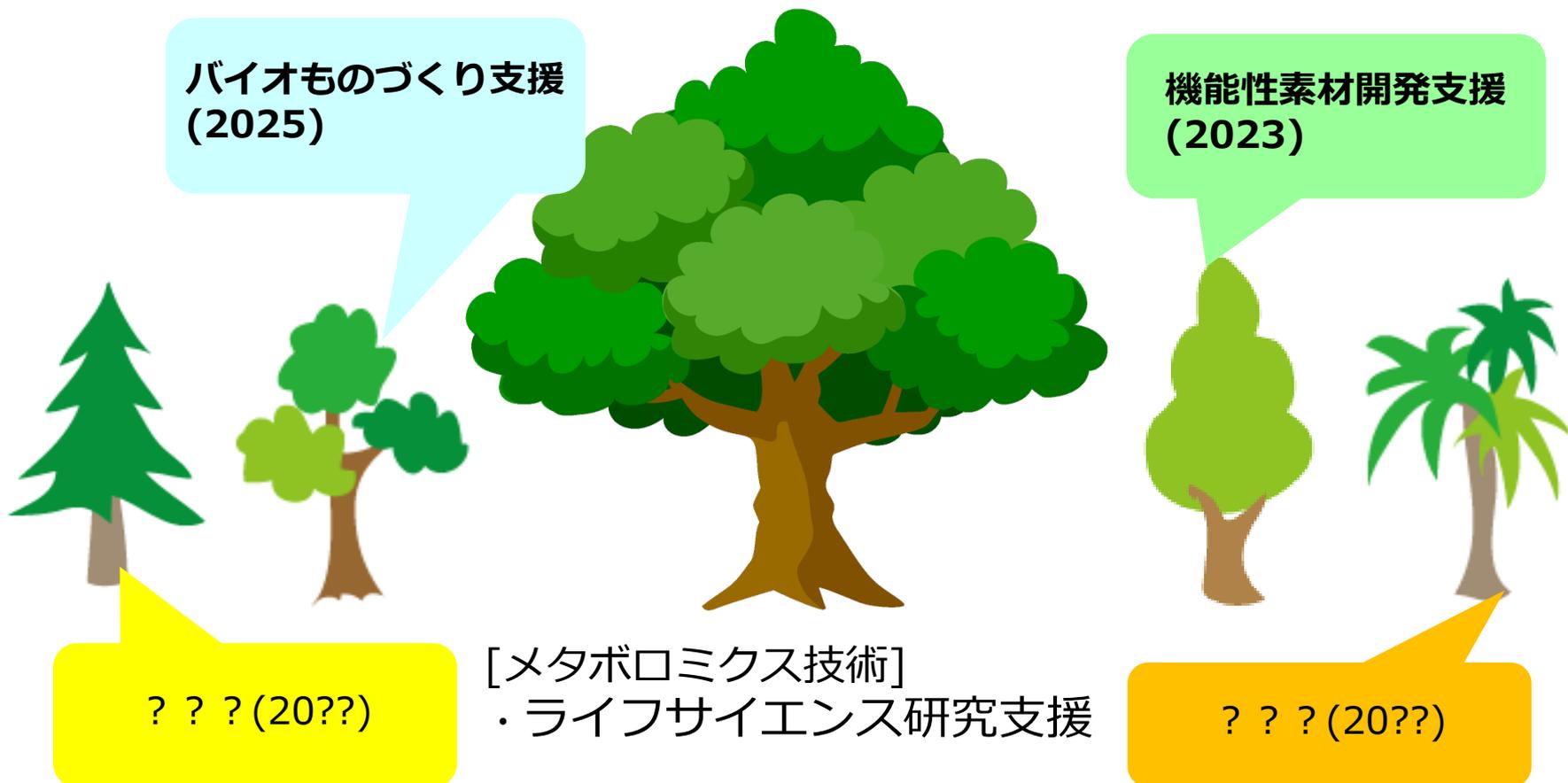
代謝シミュレーション

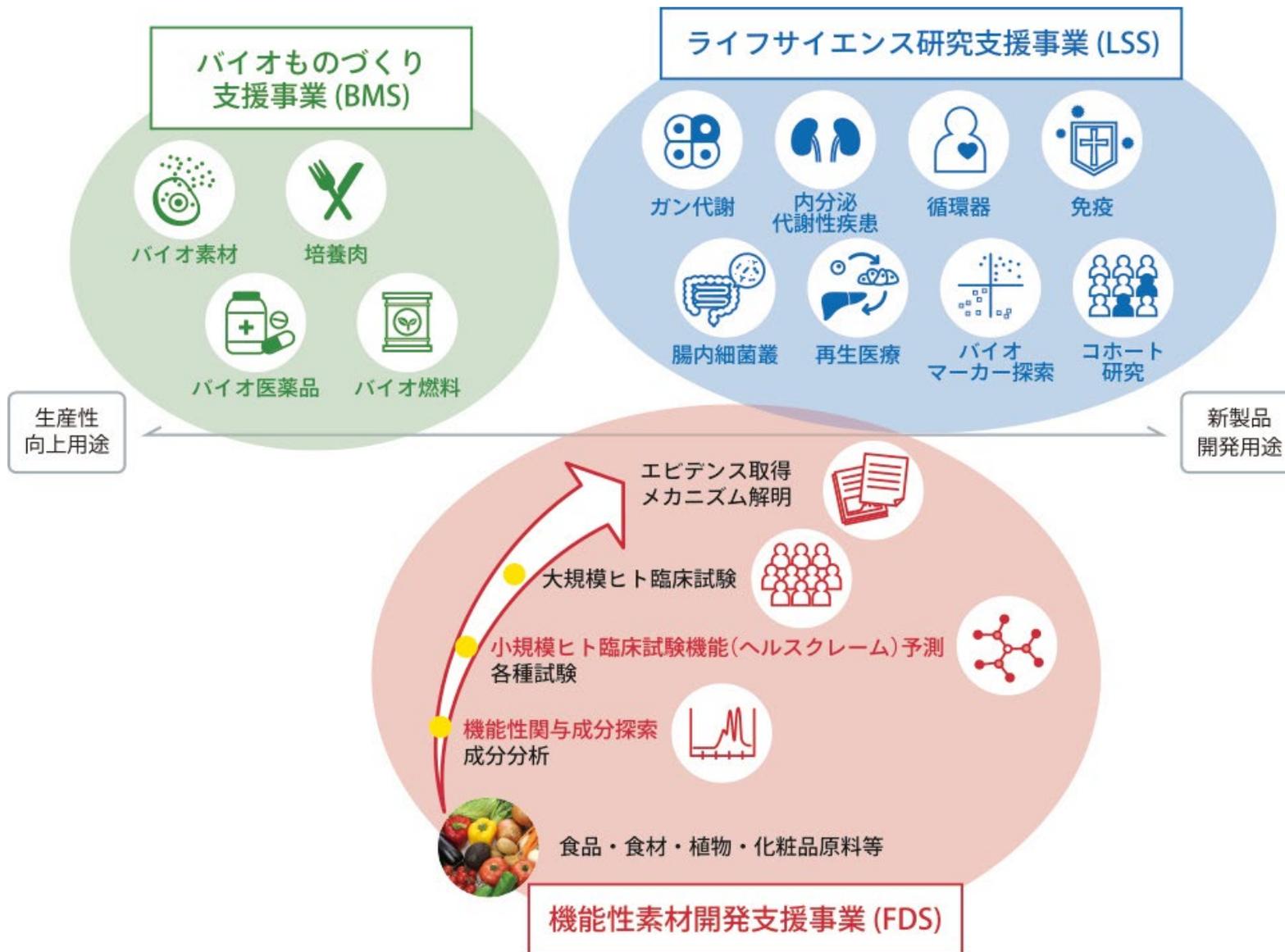
サイエンスサポート

# 既存事業であるライフサイエンス研究支援サービスと機能性素材開発支援サービスの安定成長



## 新規事業創造の継続





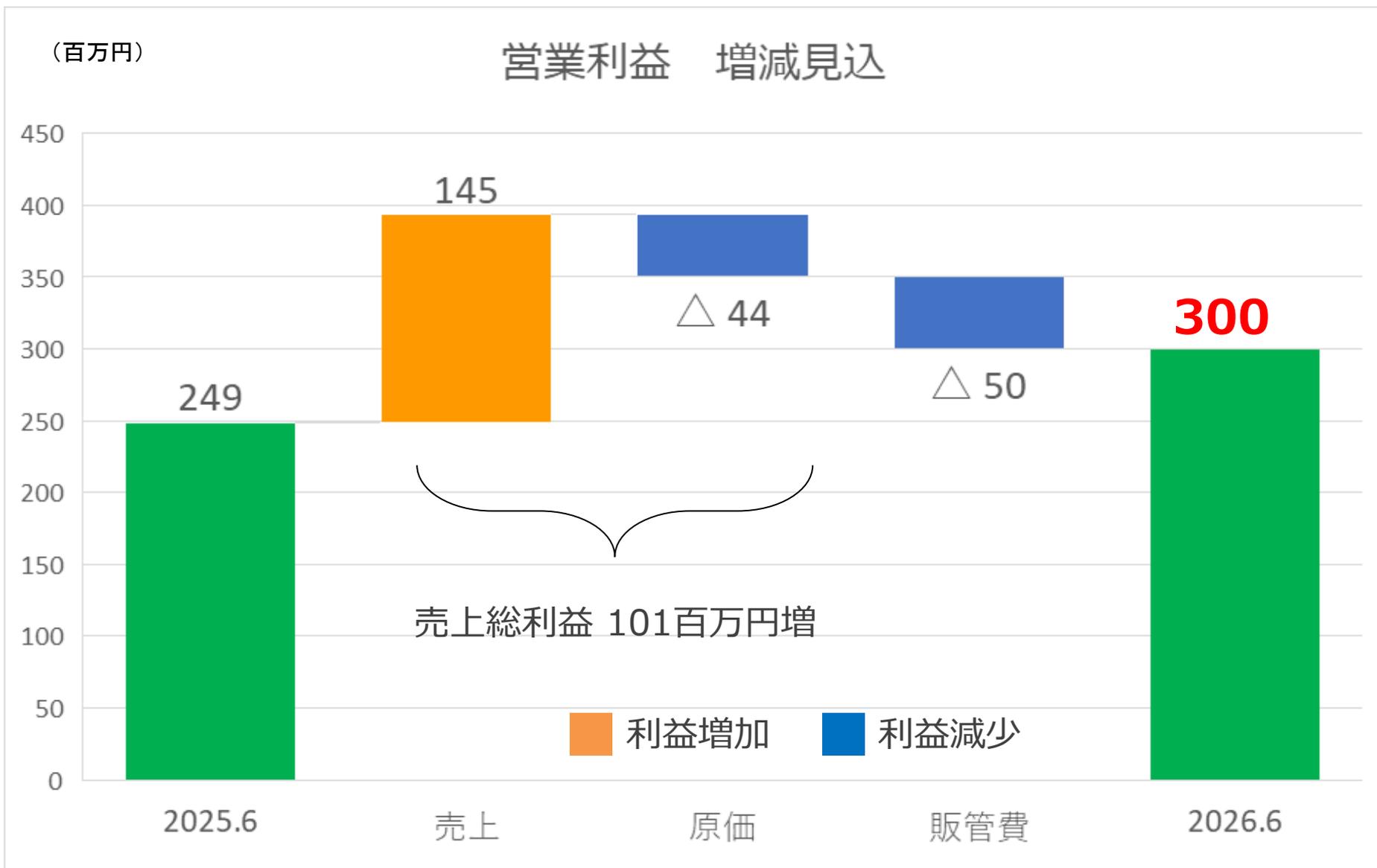
# 目次

1. 2025年6月期（前年度） 決算報告
2. 中期経営計画の進捗
3. 2026年6月期（今年度） 業績予想
4. 資本コストを意識した経営施策

## 参考資料

(単位：百万円)

	2026年6月期	2025年6月期	増減
売上高	1,600	1,455	145
営業利益	300	249	51
経常利益	300	240	60
親会社株主に帰属する 当期純利益	260	256	4
一株当たり配当（円）	18円	15円	3円



2024年6月期～2026年6月期 成長基盤構築

新規事業による利益拡大・飛躍的成長に向けた  
新規分野での研究開発の推進

(単位：百万円)

	2023年6月期	2024年6月期	2025年6月期	2026年6月期
売上高	1,299	1,345	1,455	1,600
営業利益	210	220	249	300
経常利益	232	241	240	300
親会社株主に帰属する 当期純利益	285	243	256	260

# 目次

1. 2025年6月期（前年度） 決算報告
2. 中期経営計画の進捗
3. 2026年6月期（今年度） 業績予想
4. 資本コストを意識した経営施策

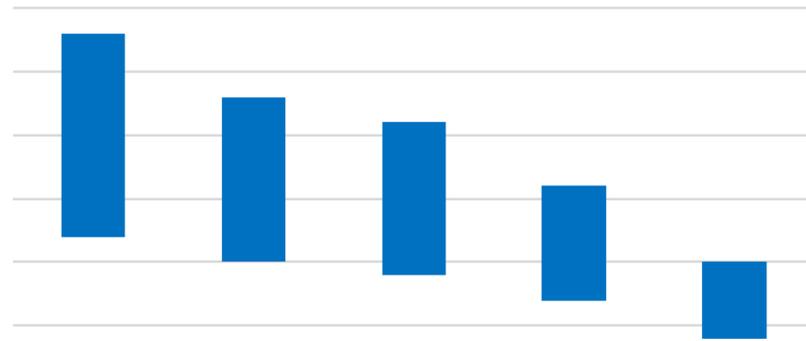
## 参考資料

## 資本コスト(当社推定)

WACC年次推移(%)



株主資本コスト年次推移(%)



	2021年6月期	2022年6月期	2023年6月期	2024年6月期	2025年6月期
下限	13	10	9	7	5
上限	10	8	7	5	3

	2021年6月期	2022年6月期	2023年6月期	2024年6月期	2025年6月期
上限	16	13	12	9	6
下限	12	10	9	7	4

※CAPMに基づく当社試算。株式プレミアムを6-8%と推定。リスクフリーレートは日本10年国債利回り。  
B値はロイターの数値に基づく（各年度終了後の8-9月の任意の時期の数値。2025年6月期は7月1日時点の値）

- 安定した業績成長によるボラティリティの低下に伴い、資本コストは低下傾向にあると考えられる。
- 2025年6月期末時点での株主資本コストは**4-6%**と推定

## 資本コストとその他指標の推移

	2021.6	2022.6	2023.6	2024.6	2025.6
WACC	10-13%	8-10%	7-9%	5-7%	3-5%
株主資本コスト	12-16%	10-13%	9-12%	7-9%	4-6%
ROE	5.1%	20.8%	18.4%	13.5%	13.6%
PBR (倍)	4.1	2.9	2.5	1.9	2.4
PER (倍)	87.6	16.1	15.5	15.4	17.5

※ROE、RBR、PERは有価証券報告書記載の定義に基づく

本資料の一部またはすべての複製・再配布は、お断りいたします。

## 目標： ROEターゲット

中長期的に**15%以上**を目標

## 方針

- 1) **成長戦略**による利益増加
- 2) **キャピタル・アロケーション**による株主資本適正化

## キャピタル・アロケーション方針

- ✓ 必要現預金として自己資金10億円を運転資金として確保
- ✓ 戦略投資資金（M&A・設備投資など）として5億円を確保
- ✓ これを超過して創出されたキャッシュフローは株主還元（配当・自社株式取得にて）
  - 配当は「**減配回避・増配基調**」を目指す
  - **機動的な自社株式取得**を推進
    - ◇ 保有自社株式は取締役向け株式報酬、M&Aなどに活用を予定

## 2026年6月期

- ✓ 配当性向を**40%**程度
  - 次年度配当予想を1株当たり**18円**
- ✓ 実施中の自社株購入結果および中間決算の状況を踏まえ、キャピタルアロケーション方針に沿った自社株式取得の検討を行う。

# 参考資料



## ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社

設立年月日：2003年7月1日

資本金：1,488百万円

取締役（社内）：大畑 恭宏（代表取締役社長）

紙 健次郎（取締役）

創業者：（2025年6月現在）

富田 勝 慶應義塾大学名誉教授

曾我 朋義 慶應義塾大学教授

主な事業内容：メタボローム解析

売上高（直近）：1,455百万円

従業員数（連結）：62名（博士：11名）

（2025年6月現在）

本社：山形県鶴岡市覚岸寺字水上246-2

東京事務所：東京都中央区新川2-9-6

シュテルン中央ビル5階

子会社：HMTアメリカ アメリカボストン

- 2001 ● 慶応義塾大学先端生命科学研究所、山形県鶴岡市に開所
- 2003 ● 創業（創業者：慶応義塾大学 富田氏、曾我氏）
- 2012 ● Human Metabolome Technologies America Inc. 設立
- 2013 ● 上場（東証マザーズ（現グロース市場）：6090）
- 2023 ● 創業20周年
- 2025 ● 東証スタンダード市場上場（市場区分変更）

(百万円)

